

第9回 杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会会議録（要旨）

会 議 名		第9回杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会
日 時		令和7年6月27日（金）午後15時00分～午後16時44分
場 所		杉並区阿佐ヶ谷地域区民センター 2階 第1・2・3集会室
出席者	委 員	学識経験者：深尾 精一 阿佐谷地区町会連合会の代表：田中 昭一 杉並第一小学校通学区域内に存する町会の代表： 佐藤 文夫 徳田 紀美子 杉並第一小学校学校運営協議会、学校支援本部の代表： 伴野 博美 岡田 円治 竹越 不可止 杉並第一小学校震災救援所の代表：近藤 浩 阿佐谷地域の商店街関係者の代表：細田 宗宏 杉並第一小学校PTAの代表：長谷川 篤男 武田 幸彦 杉並第一小学校校長：山口 祐美子 杉並第一小学校副校長：杉田 英昭 小島 昭博 懇談会委員15名（欠席5名）
	事務局	学校整備・支援担当部長：高山 靖 まちづくり担当部長：吉見 紗 学校整備課長：安川 卓弘 学校整備担当課長：花岡 純子 拠点整備担当課長：鈴木 伸建 防災課長：手塚 剛 学童クラブ整備担当課長：千葉 俊明 教育施設計画推進担当係長：岡本 智彦 株式会社日総建：櫻井 成行
傍 聴 者		12名
次 第		1 開会 2 教職員アンケートの実施について 3 諸室配置（案）について 4 閉会
資 料		資料1 新しい杉並第一小学校の概要 資料2 人工芝と一足制について 資料3 教職員アンケート項目 資料4 教職員アンケート集計結果（1：速報版）（2：追加（当日追加配布）） 資料5 平面図（基本案）改訂版（当日追加配布） 参考資料 第9回杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会 座席表 杉並第一小学校改築ニュース第4号 等

進行役	皆様、こんにちは。お暑い中、ありがとうございます。 ただいまから第9回杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会を開会いたします。 それでは、次第の前に杉並区からお知らせがございます。 事務局、お願いいたします。
拠点整備担当 課長	6月9日付けで事業調整担当と学校整備課の連名で、改築懇談会委員の皆さまにお知らせさせて頂いたところですが、改めて、私から、「河北総合病院からの解体工事延伸等の申し入れと今後の対応」について、ご説明させていただきます 区では、社会医療法人河北医療財団及び樺興産株式会社と共に、平成29年6月22日に締結した「阿佐ヶ谷駅北東地区におけるまちづくりの推進に関する協定書」及び令和2年6月19日に締結し令和6年8月1日に改正施行された「阿佐ヶ谷駅北東地区土地区画整理事業施行協定書」に基づき、阿佐ヶ谷駅北東地区土地区画整理事業を共同施行しているところです。 この度、現河北総合病院の解体工事について、令和7年5月28日に行われた施行者会において、河北医療財団から、小学校建設に支障がない杭等の地下構造物をできるだけ存置し、解体工事の工期を現行計画より5か月程度延伸したいとの意向が示されました。 区では、病院の意向を事前情報として得ていたことから、河北医療財団に対し、5月1日付で「河北総合病院解体工事に係る申し入れ」を提出し、区の見解をお伝えするとともに再考を求めてまいりました。 しかし、5月20日付で河北医療財団から提出された回答では、解体工事の工期延伸及び地下構造物の一部存置の意向が示され、同じ施行者の一員として大変残念な結果となりました。 病院側からは、その理由として、本件解体工事は、狭隘な道路を使用する、住宅地における大規模な解体工事であり、また解体工事現場に隣接する救急医療を担う新病院は区民及び地域住民への医療サービスを途切れさせることなく、解体工事を施工しなければならないという極めて特殊なケースであり、何よりも地域住民及び近隣住宅にとって安全に解体工事が行われ、かつ解体後も当該土地が安全であるための選択をすることが重要であるなどの考え方に基づく判断であるとの説明がなされました。

	区としては、もとより工事の安全性と解体後の土地の安全性の確保は重要であると認識しておりますが、病院跡地の区への引き渡し時期の遅延は、杉並第一小学校の新校舎の開設時期の遅れにつながり、児童及び学校関係者などに多大な影響を及ぼすことから、当初のスケジュールどおり、令和9年1月1日から区が病院跡地の使用を開始できるよう河北医療財団に対し協定書の遵守を求めてまいります。 なお、現時点において、何ら計画に変更が生じてはおりませんことも申し添えておきます。 私からは以上となります。
進行役	では、この後、議事を進めてよろしいですね。 それでは、次第に入っていきます。
拠点整備担当課長	すみません。早口でご説明を差し上げたところですけども、病院から解体工事延伸につきまして何かご質問等があれば、今答えられる範囲の中でお答えさせていただければと思います。
進行役	それでは、質問、意見がある委員は挙手をお願いいたします。
委員	今の拠点整備担当課長さんのご説明でいくと、お約束の期日を守ってほしいということは、杭はどうするおつもりですか。
拠点整備担当課長	現段階では地下構造物等につきまして、全て撤去してほしいということをお願いいたします。 ただ、これから協議をする中で、こういった形で収束させるかということは、区で協議を進めてまいりたいというふうに考えているところがございます。
委員	十分にそこは配慮なさって、きちんとした形で、期日だけ守られても、そのところの安全性が守れないのであればということもありますので、そこは極力今の状況で頑張っていただきたいと思っております。 以上です。
進行役	委員。
委員	ご説明ありがとうございます。 今の説明で正直ちょっと気になりました。区から5月1日付で河北医療財団に申入れを行って、それに対する答えが5月20日に返答があって、区からの申入れを全面的に聞かないような内容のものだったことに対して「残念な結果となった」と今ご説明されたのです。「残念な結果になった」という表現が何か随分弱くて。 河北医療財団からの話は様々な理由を掲げて工事が5ヶ月ぐらい遅くなりますと。少しでも解体工事を進めるため、地中にある杭は可能な

	限り残したいという申入れであったと聞いています。 区の基本的な考え方は、これも今ご説明あったように、過去の三者協定の中でそうしたことについても言及されていて、解体工事期間様々なことに関わるスケジュールは双方きちんと遵守することと。それから、地中の残留物については元の地権者、このケースは河北医療財団ですけれども、河北医療財団が地中のいろいろな物が残らないように、きれいな形にして土の中もきれいな形にして区に渡すことと取れ決められていますと。そうですね。 この地中の杭についてはもう1つ、やはり病院跡地なので、土の中に何が入っているかということは、きちんとした環境アセスメントについての調査も行われなければならないと。それについても、その段取りも含めてこの場でもご説明してくださいというお願いをしています。杭を抜かないということであると、土の中の残留物についてもきちんとした調査を行って、本当に安全な形で引き渡しを受けることができるのかどうかということについては、はなはだ心配が起きます。 今年、杉一は創立150周年を迎えるわけですがけれども、新しい場所で100年、200年、杉並区第一小学校が続いていって、この地域の子どもたちが育っていくとても大事な場所になるわけです。その場所をきちんとした形の場所として引き受けて、そこに立派なものを建てるということを貫かなければならないと考えています。 技術的ないろいろな難しさがあるのかもしれませんが、そうしたことは協定書の中でも既に定められていたりして、当初から想定できたことも多々あると感じます。 ぜひ、きちんとした形で土地を受け継ぐことができるように、工事期間含めて、進めて頂きたいと思います。 以上です。
拠点整備担当課長	確かに委員のおっしゃるとおり、施行協定書に書かれているところでございます。我々としても、それをきちんと履行していただきたいということは、これからもそれを求めていくというところでございます。 ただ、今後、病院サイドと協議する中で、何が適切なのか、今回学校がこちらに移転することによって当然学校としての機能をきちんと果たす必要があり、私のみならず教育委員会も含めてそう思うので、しっかりと協議を進めていきたいと考えてございます。
進行役	委員、どうぞ。
委員	本当に拠点整備担当課長さん、本当にご苦労さまでございます。

	一言です。河北の理事長さんは、我が杉並第一小学校の運営協議会の会長をやって杉一のことをよく分かっているわけですから、そういう分かっていることを、今、委員が言われたとおり、100年、200年続く小学校をどのようにしていったらよくなるのか。そのためにはその移転先の物を、いわゆる現状復帰してちゃんと返すと。今日もここに建築専門の方がおられるのでしょけれども、私自身は環境専門ですから、そういうことをきちんとやっていただくということを、現に区から、今回区長さんは大変いいことを言われたのではないかなと。 一言だけ付け加えさせていただきますけれども、いわゆる河北元院長は杉一のことを知っているわけですから、ちゃんと現状復帰して返すということをとにかく圧力をかけて言っていたきたい。弁護士を出したからと驚く必要はございませんから。また、清水建設が出てきても、そんなのは関係ありませんから。要はフォローするのが当たり前でしょうから。そういうことをきちんと言っていたきたいと。それには拠点整備担当課長さんに期待しておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。 以上でございます。
進行役	拠点整備担当課長。
拠点整備担当課長	区といたしましても、法律的な視点と技術的な視点、この両面からしっかり病院の方にも説明をしてまいりますし、今後も、しっかりと対応してまいりたいという考えでございます。ありがとうございます。
進行役	ほか、ございますか。 委員
委員	今、先方さんから言われている遅れる理由と残す理由が、敷地が狭隘だということ、住宅地に隣接しているということ、病院の機能があるという理由が、ご説明あったかと思いますが、これは今分かったことではなくて、当然土地を回して区画整備をすると分かったときから分かっていたことを理由にされるのはちょっとおかしいのではないのかなと聞いていて思いました。そこは区としてもしっかり反論をして、当初の協定を守っていただくように粘り強くやっていただくのがいいのではないのかなと思いました。 少し気になったのは、区画整理事業でやるということは、当然更地で土地を持ち寄るということが大前提になりますので、そこに何か地下に構造物を残して渡すということは基本的にはあり得ないことだと思います。

	委員の方々からも 100 年先、200 年先というお話がありましたけれども、当然この場所は 100 年先、200 年先も区の施設として、学校として使っていくということだとすれば、もし今造ろうとしている建物に当たっていないからといって将来建て替えるときに邪魔になるということも当然あると思ひまし、そういったものが残っているということは土地の大きな瑕疵になりますので、そこは絶対許容できないのではないかと一般的に思いました。 もし、本当に残して出て行かれるということであれば、応分の費用なり対応が必要なのではないかなと思います。換地の見直しだとか、そういったことも含めて協定に関わる大きな変更が必要になるのではないかと聞いていて思いました。 よろしく願いいたします。
進行役	拠点整備担当課長。
拠点整備担当課長	病院から聞いている遅延する理由は、先ほどお話をさせていただきましたけれども、そのほかにも、人手不足ですとか、資材の高騰など社会経済や環境の変化も理由の一つとして伺っているところです。 このような理由をもって、それを認めるか認めないかは別の話ですので、それはしっかりと対応してまいりたいと思います。 また、先ほどご意見いただきましたように、もし地下構造物等の存置や工期の延伸をするのであれば、保証ということも視野に検討せざるを得ないのかというふうに思っております。 ただ、現段階としてはあくまでも施行協定に沿って進めてほしいと思っておりますし、今後、病院と協議を進めて参りたいというふうに考えてございます。
進行役	ほか、よろしいですか。 では、次第に移ります。次第の 1「教職員アンケートの実施について」、事務局からお願いします。
教育施設計画推進担当係長	前回までの懇談会で、今後は校舎の配置を病院側に寄せて検討していく旨ご説明させていただきました。また、委員の皆様から学校の先生方の意見も聞いてほしいとのご要望を頂いておりました。 校舎の配置が固まったことで、学校の先生方に教室の配置案なども見やすく意見を述べやすいものがご用意できるようになりましたので、今回は資料 1 の「新しい杉並第一小学校の概要」と資料 2 を配付し、先生方のアンケート調査を実施いたしました。 資料 1 は諸室の配置案となっております、校舎の配置の際に懇談会

	で御覧いただいていた案を基本プランとしてお示しをするとともに先生方に幅広くご検討いただけるよう、少し異なる配置案もご用意させていただきました。そちらが資料１の２枚目になっております。 職員室や保健室、事務室などの管理諸室を１階にまとめている基本プランから一部を普通教室と入れ替えてみたものを①。さらに学童の配置も変えてみたいものを②としたものです。 それでは、図面資料の詳細について日総建さんからお願いいたします。
日総建	ここから私からご説明いたします。 お手元の資料１の「新しい杉並第一小学校の概要」について。 まずは基本プランからです。左上配置図から順番にお話します。 配置計画は前回までご検討いただいたとおりで、校庭面積の確保、校庭及び近隣の日照の確保、水害リスクの最小化などの観点から図のとおり、南西側を校舎、北東側を校庭とする配置としています。前回までＡ案と呼ばれていたものです。 それから、敷地の角に半屋外スペースとして「まちかど広場」を設け、昇降口や正門前の対滞留スペース、雨や直射日光が避けられる屋外の活動スペースを計画しています。 それから、校舎の階構成といたしましては、職員室など管理諸室を１階、普通教室と特別教室は２階から４階に配置しています。 校庭面積を確保するため、体育館は２階、プールは５階としています。 普通教室は２階から４階の校庭側に、特別教室はその反対側の道路側に配置しています。 多目的１室を昇降口の脇に配置し、課外活動や地域イベントなどに活用しやすい計画としています。 音楽室は楽器の運搬に配慮して体育館と同じ２階としています。 管理諸室です。職員室は１階の校庭や昇降口の様子を確認しやすい位置とします。 事務室、用務主事室は来客対応しやすい昇降口前に配置しています。 給食調理室は昇降口の反対側として搬出入が安全に行える位置に計画しています。 それから、少し飛ばしまして校庭のお話です。１００メートルトラックと５０メートル走路を確保した上で周囲に屋外倉庫や緑地を設けます。校庭の舗装は砂塵対策のため人工芝とすることも検討しています。このことにより靴に付着する砂が減少するため、併せて一足制を導入すると

昇降口での靴の履き替えを不要とすることも可能になります。

それから、ワークスペースです。普通教室前にそれぞれワークスペースを設け、多様な学びのスタイルに適用できる計画とします。普通教室とワークスペースの間には閉じることでもできる開くことでもできる間仕切りとして活動に応じた様々な使い方ができるように計画していきます。下のイラストのとおりです。

1枚目は以上です。

1枚めくっていただいて、A3の2枚目になります。先ほどのものが基本ベース案で、こちらはバリエーションとして、低学年1階プラン案の①と②と2つ作ってございます。

まずは左から。ベース案等の違いは概要に書いてあるとおりですが、低学年教室を校庭に近い位置とするために1階に普通教室を配置して、2階に職員室を上げた案です。

メリットは、低学年の普通教室4室が1階の校庭に面した位置となるので、児童が教室からそのまま校庭に行くことができるようになります。

デメリットとしては、昇降口近くに普通教室が配置されるため、児童の安全性の確保上、課題が残ります。

それから、普通教室の1室は昇降口に面するため、ワークスペースを設けられなくなっています。

それから、隣の低学年1階プランの②ですけれども、先ほどご説明した①との大きな違いは、1階にあった学童クラブを3階に上げて、そこに職員室を設けて、職員室の管理スペースを1階にまとめるところが概要になっています。それがメリットとして現れるということです。1階に低学年の普通教室があるというのは一緒です。

デメリットとしては、学童クラブがどうしても上の階に行ってしまうので、校舎内を経由する必要があるところが大きなデメリットとして挙げられるかと思います。

もう1枚めくっていただいて。このページはワークスペースの使い方です。左上からテーブルでグループワークをしている様子の写真、それから、その隣は床での作業です。教室との間の引き戸を大きく開けて、教室とワークスペースを一体にして使っていく様子。それから、その右側の写真は作品とか教材などをワークスペースに展示している様子になります。

それから、写真の左下。ベンチやグループテーブル、カウンターなど

	で個別学習をしている児童の様子です。その右側の隣がワークスペースを発表スペースとして利用している様子です。その右側が児童数人で集まれるDENコーナーになります。 1枚めくっていただき、こちらが各案のセキュリティゾーニング図になります。 左上の凡例を御覧ください。 まず、Zone 1、肌色のところですが、地域に常にか開かれている部分として、敷地の外周部を塗ってあります。 それから、2番目のZone 2は校舎内を経由せずに利用できる。校庭や体育館、まちかど広場の一部です。緑色に塗ってあります。 次のZone 3と4が今回の計画の一番の特徴ですけれども、Zone 3の青の部分が普通教室前を経由せずに利用できる、屋内階段とかエレベーターとか廊下のエリアで、その下のちょっと紫のZone 4の部分が学校の共用部です。昇降口から屋内階段を上がってワークスペースに至るルートになります。 そして、Zone 5の部分がこの学校の中で一番プライバシーが守られるべき部分で、学校の普通教室とか管理諸室がピンク色。それから、学童クラブは少しオレンジがかかった色ですが、それぞれのエリアごとにゾーン分けをしています。 この考え方を基に左から基本プラン、低学年1階プランの①、一番右の②と、どのプランでも成立するような構成になってございます。 もう1枚めくっていただくと、こちらがアンケート配布時に提出した基本プランの平面図になります。 私からは以上です。
教育施設計画 推進担当係長	ありがとうございます。 教職員のアンケート調査については、今ご説明した資料1のほかに資料2「学校校庭の人工芝整備及び一足制について」をお配りしてご回答いただいております。 ただ、人工芝の比較資料は懇談会の委員の皆様からのご要望のあった内容になりますので、説明の最後に回させていただきます、ほかの資料について先にご説明をさせていただきます。 資料3を御覧ください。こちらは、どのような形でアンケート調査をしたかということをまとめた資料になってございます。 概要としましては、杉一小で働いていらっしゃる先生のほか、事務の方ですとか、非常勤の皆さんにもご協力をいただき、アンケート調査を

行いました。

6月10日に開始しまして、1回目の締切りとして16日までにご回答いただいたものを今回集計してお持ちさせていただいております。ただ、学校の先生は非常にお忙しいので、なかなか一週間程度では難しいかなということで、締切り全体としては6月30日まで入力できる形で、ネットで回答できるようにしているところでございます。

こちらは今回16日まで集計したものを資料4-1と、それから、4-2にまとめているところでございます。

16日までの回答は14名いらっしゃいました。今日、こちらに出てくる前に確認しましたところ、全部で今は21名ご回答いただいているところでしたので、今後また細かい内容を確認しながら反映させていきたいと考えております。

資料3の2番目の「アンケートの内容」というところでございますが、非常に設問が多くて先生方は大変だったのではないかなと思うのですが、けれども、漠然と聞いてしまうと、恐らく何を答えていいかも分からないこともあるのかなと思ひまして、今回の設計のタイミングに合わせてお伺いしたい内容を幾つか目出しをさせていただきまして、これを全部答えてくださいということではなくて、回答したいものはやっていただいて、そうではないものは飛ばせるような形で選べるようにしております。その上で最後に自由回答を設ける形にしました。こちらについては、今回お配りした資料1と2について、トータルでご意見を頂くという形で調査をさせていただいたところでございます。

アンケートの内容で目出ししているものをざっくりお話しさせていただきますと、最初に子どもたちから非常に多くの声が寄せられていた校庭の遊具や飼育小屋について、また水場についてお伺いさせていただくという設問を設けております。

2つ目が人工芝。それからめくって一足制。

それから、一番大きいのが4番目でして、資料1の教室の配置についてどう思われたか、あるいは、その次のワークスペースについていかがでしょうか、という形で質問させていただきまして、最後に、実は放送室の場所が今非常に課題になっていまして、場所取り合戦の中であぶれてしまっている状態があったので、先生のお声もお聞かせいただきたいということで設問に加えて、それからあとは校庭・体育館等々の欄についてお伺いさせていただいたところでございます。

こちらの資料3がアンケートの大きな概要になってございまして、

次、資料４－１を御覧いただけますでしょうか。

カラーの印刷になっていますが、こちらが 16 日までに 14 件ご回答いただいた内容をこちらのほうで要約をまとめまして掲載させてもらったものでございます。

設問を同じ順番になっております。また、それぞれ、例えば 1 番の「校庭の遊具や飼育小屋等」と書かれているところの（１）校庭遊具の横に点線が引いてあって、8 件と書いてありますが、14 人がご回答された中で 8 件の回答が寄せられたことを表しています。お一人で 2 つ、3 つ項目を分けて書かれている方もいらっしゃいましたが、すべて 1 件としてカウントをさせてもらっているところです。

また、この設問ではなく最後の自由意見で書いている場合もございましたので、そちらはこちらに移して集計させてもらっているところです。

そして、ブルーのところで「要約」と書いていますが、下に点で書いているコメントが先生から頂いた意見を私どもで要約したもので、似ているものは 1 つにまとめまして、右のほうにオレンジで「同意見 3 件」と書いているところがありますが、同類の意見があったということでまとめさせてもらっているところです。

また、「要約」と書いている横に長いブルーの棒がありまして、そこに白文字で書いている部分、たとえば校庭遊具については「意見の方向性」で「校庭に遊具は必要」という形でまとめておりますが、この「意見の方向性」というのはアンケートの回答の中で多くの先生方がそういう回答されていた、そういう方向性で回答していたというものをこちらでまとめさせてもらったものでございます。

最初の校庭遊具につきましては、トータルとして遊具は必要ですと。ただ、大まかなところでいくと、「同意見：3 件」というのが 2 行目にありますが、現在杉一小にある遊具は体育でも使用しているため必要と。逆にブランコやシーソー等は必要という先生もいらっしゃれば、逆に発達年齢的に異なるので不要ではないかという意見がありました。ただ、多くの先生方が遊具は必要ということで、また、1 番目にもありますように、夢中で遊べて、かつ、身につけてほしい運動が身につくような場とか遊具があるとよいという形でご提案をされておりましたので、後ほどまた説明をさせていただきますアンケートの結果を基に書き換えました図面に案として、まずは反映させてもらっているところでございます。

次、2つ目、飼育小屋です。こちらについてはやはりと言いますか、子どもたちからは非常に人気が高かったのですが、暑さとか寒さとか、あるいは近年動物のアレルギーの問題を抱えている児童も増えておりまして、飼育環境としては課題が多いのではないかという意見が多く寄せられたところです。ネズミであるとか臭いとか騒音、そういった課題があるので、そういったところをクリアできるような形で何とかできないですかということでご意見が寄せられました。

3番目の水場につきましては、これは「ビオトープも含む」という形でお伺いさせてもらっておりますが、魚が好きだったりヤゴとかを観察するような授業もあるので、水場は必要ですと。ただ、飼いたいといっているものが、メダカ、ヤゴ、カメとか比較的水場というよりは水槽でも飼えそうなものもあつたりします。実は先生方から臭いであるとか衛生面であるとか、あと、蚊の問題、害虫の問題も指摘されておりましたので、その辺をトータルでこれから検討させていただいて、課題の解決ができるかどうかということを今後俎上に上げて、しっかりと精査していきたいと考えております。

また、その他の項目では、校庭につきましては植物栽培の場所が必要ですよと。あるいは、砂場とか遊具についても配慮をしてほしいという形でご意見が寄せられました。

めくっていただきまして、比較資料は後ほど説明させていただくのですが、人工芝につきましては授業でのメリットが大きいと。ただし、暑さ対策は必ずしてほしいという形でご意見がありました。

また、人工芝を整備しないスペースも存在しますので、そういった場所についてお伺いをさせていただいたところ、校庭の中心は人工芝にさせていただいて、校庭の脇の部分にそういった人工芝ではないところがあるといいのではないかという意見がございました。

「その他」のところは、過去にこういった事例もあったと。例えば千切れて静電気で服にくっついたりして、給食の食缶に入るようなケースもあったということがあったので、素材は安物ではなくて耐久性が高いものを使ってほしいとか。あと、子どもさんが芝生を抜いたりすることがあるので補修を考えてほしい。あるいは、植栽と併せてしっかりと検討してほしいといった意見が寄せられました。

また、次のページの一足制につきましては、杉並区ではまだ実績がございませんので、いろいろと分からないということと、心配事についても質問が寄せられたところでございます。

	次に「教室の配置」です。今回大きく3つ配置の案を出させていただいたところですが、方向性としては基本プランでお示しした内容がよろしいのではないかという意見が非常に多かったです。 ただ、低学年の教室につきましては悩ましい状況で、1階にあったほうがいいのかという先生もいらっしゃる、安全のためには昇降口から離れたほうがいいのか、職員室とか保健室が近いほうがいいのかといった意見がやや入り乱れている状況となっております、この辺については、これから詳細を決めていくに当たって我々でもどういった工夫ができるかということを考えていきたいと思っております。 めくっていただきまして、最後のページになります。ワークスペースにつきましては、いろいろ便利な使い方ができるというご意見とともに普通教室としっかりと壁を仕切って使えるような使い方をしたいと。その場合に、壁はしっかりしたもので扱いやすいものにしてほしいという意見が寄せられておりました。 先ほど述べさせていただきました放送室につきましては、校庭側がいいですということでお話ございました。 また、ラインの整備につきましては、意見が少なく、基本であるライン以外についてはあまり意見が寄せられなかった、今後もう少し我々のほうで聞き方を工夫していったほうがいいかなと感じた次第でございます。 ざっくりではございますが、教職員のアンケート調査の集計結果についてお話をさせていただきました。 以上がアンケート結果のご報告となります。
進行役	では、続いて次第の3、「諸室配置の案」についてもお願いします。
教育施設計画 推進担当係長	それでは、本日お配りしておりました資料4-2を御覧いただけますでしょうか。こちらは併せて資料5の平面図も参考しながら、ご覧ください。 先ほどもお話ししましたが、資料5は今回のアンケートの内容をできる限り反映させたものとなっております。 また、アンケートの資料4-2につきましては、巻末に今回の基本設計の段階ではまだ検討できる段階ではないので、今後の実施設計等に譲っていく内容とかをまとめて記載してございます。 それでは、こちらから先の説明はまた日総建さんをお願いしたいと思います。
日総建	そうしましたら、私から資料4-2を上から順番にかいつまんでご説

明していきます。

この資料４－２ではアンケート調査を受けて、資料５「平面図（基本案）改定版」に反映した内容についてまとめています。併せて資料５を御覧いただくと理解が深まると思います。

また、アンケートの自由意見で寄せられた内容のうち、今回の基本設計ではなく、今後の実施設計で検討していく内容であったり、今回改築の範疇を超えているようなものについては最後に集約してございます。

まず、１の「校庭の遊具や飼育小屋等」というところで、（１）「校庭遊具」のところです。こちらは必要という、先ほどご紹介がありましたけれども、そういった意見と、それから、既存の遊具の整備を求める声があったことから、既存のものを中心に校庭の周辺に配置する案として今作成しています。

それから、２つ目の「飼育小屋」については、先ほどもお話があったように、動物アレルギーやネズミの発生、鳴き声や臭いなど多くの課題があるという指摘がありましたので、支障のない場所や動物の種類、対策手法等も含めて再検討するという事で、一旦、図中への表記は見合わせています。

それから、３つ目「水場（ビオトープ等も含む）」ですけれども、安全対策や衛生面、蚊など課題が多く指摘されましたが、カメやメダカ、ヤゴといった生き物の飼育場所として整備を支持する意見も寄せられていますので、雨水浸透や環境学習に活用できるレインビオトープの案もありますので、水場は課題が解決できるめどが立った際には一体的に整備できるように配置に盛り込んでいます。

それから、４つ目「その他」として、学年別の菜園、植木鉢の置き場についてもご提案がありましたので、樹木とのバランスを取って、今は日当たりのよい東側に配置しています。

それから、２つ目の「校庭の人工芝」ですけれども、こちらの検討案については資料２にまとめございます。後で説明することになっています。

熱対策のスプリンクラーなどの配置については、今後実施設計で検討していくものですけれども、まずは人工芝で整備する場合、100メートルトラックと50メートル走路については工事でペイントを予定しておいて、先生方の意見も伺って調整して運用しやすいラインやマーカの設置なども検討していきたいと考えております。

1枚めくっていただいて、2枚目の「人工芝を整備しないスペース」

ということで、校庭の周辺部で動線として運用しやすい場所に人工芝以外の舗装を整備する場所を設けて、かまどベンチの整備などで防災訓練などの活動に支障が出ないような案を作成しました。

また、まちかど広場でも防災の炊き出しなどの対応は可能だと考えています。

それから、2つ目の「その他」というのは、先ほどちょっとお話があったように、耐久性の話でマイクロプラスチックのお話も資料2のほうでご説明する予定になっております。

それから、3番目の「一足制」についても現在は選択肢の1つとしての段階ですけれども、昇降口の広さについては将来推計に基づいた児童及び教職員の数について十分な下足入れが整備できるスペースとしています。

それから、4番の「教室の配置」。この辺りから資料5の次のページも併せて御覧いただけると分かりやすいです。

1階に管理諸室を配置し、その上に普通教室を整備する内容を支持する意見が多かったので、今回この改訂案は基本プランで案を作成しています。

低学年については、職員室や保健室の隣接をご希望する声もありましたけれども、児童の飛び出しや外部侵入者対策として昇降口から離れた場所を求める意見も散見されましたので、安全性を優先した配置として2階以上に置いています。

理科室を中心とした一部特別教室について配置の関係から若干狭い場所があったので、見直して調整しています。

それから、教室で囲まれた中央に階段があり、吹き抜け部ができるので、転落防止策として資料1で安全対策を具体的に記載しています。

それから、その次の5の「ワークスペースについて」。

雨の日の遊び場や作品展示としてのご意見もありましたので、特別教室前にもワークスペースを設け、フロアに回遊性を持たせる案としています。

普通教室と間仕切りの壁についても、しっかりとした造りで稼働しやすいものを求める声がありますので、今後使用を検討してまいりたいと考えています。

次項以降は細かい話がリスト化されていますので、今回は割愛させていただきます。内容については記載のとおりです。

私からは以上になります。

教育施設計画 推進担当係長	ありがとうございます。 ただいま資料５としてご説明した平面図ですが、改築検討懇談会の最後にお示しする予定の基本設計案の土台となる図面になってまいります。 今後の流れとしては、あと２回懇談会を開催し、委員の皆様からご意見をお伺いしながら、この平面図からブラッシュアップして基本設計案を作成していく予定です。 大まかな諸室の配置はこれまでの間、校舎配置を検討していく際にお示ししてきたものと大きな違いはございませんが、今回外構の植栽やフェンスの位置などが入ると同時に、地区計画などの制限に沿って校舎の形状もさらなる調整を行い、諸室の形状はより具体的になり、その際に幾つか変更されている部分もございます。 先ほどご紹介させていただきました教職員アンケートの内容なども改めて交えながら、今回は委員の皆様のご質問やご意見を伺わせていただきたいと存じます。 どうぞよろしくお願いいたします。
進行役	では、ご質問、ご意見がある方は挙手をお願いします。 委員、どうぞ。
委員	ありがとうございます。 事前に配付していただいた資料ですと、人工芝前提と考えた場合に、前から申し上げているような、かまどとか火はどうですかという質問も事前に教育施設計画推進担当係長さんにはさせていただいています。資料５のところに分かりやすいように、かまどのベンチがあって、非常にいい案かなと思っております。これは複数台設置されるのかなというところ、細かい話ですけども、ぜひこういうものとは思っています。よろしくお願いいたします。
教育施設計画 推進担当係長	ありがとうございます。 現在の絵でも複数箇所設けておりますが、場所についてはまた改めて調整させていただければと思います。
委員	非常に、ありがとうございます。 もう１つ、事前に、これも教育施設計画推進担当係長さんのほうにはお話ししましたが、体育館が恐らく外階段から２階のほうに入れるような形になるといったところで、これは以前からジュニアバンドとかそういったところが体育館だけを使うというのをよくお聞きしています。

	体育館へ行くところの経路というか、アプローチについて、といったところと、あと、グラウンド側には門みたいなものは設けるのかと。要するに感覚的には体育館は別に、すぐ外側から、今の西門になるのですかね、入れるような形になるのかといったところで、併せてですけども、質問させていただきます。
教育施設計画 推進担当係長	非常時とふだんの学校開放の扱い方で使い方が変わってくるかと考えております。 非常時につきましては、現在は大きな門しか書いておりませんので、また小さい通用門のようなものについてご検討させて、相談させていただきたいと思っております。ですので、そちらから入ってくるができるようになる予定です。 通常につきましては、例えば学校開放が想定されるかと思いますが、こういった場合は必ず正門のほうから入っていただきまして、正門にちょっと入ったところ、昇降口の脇に主事室と書いてございます。現在も学校開放につきましては、主事室で受付をしてございますので、ここで受付をしていただいて、ここから先の動線につきましては、まだ現在諸室の配置も完全に決まったわけではございませんので、これからの検討になるのですが、先ほどお話があったように、まず主事室の脇を通して、校庭のほうを通して外階段から入るという経路もございますし、実際に昇降口から入るのではなくて、ちょっと裏手に回る形になるのですが、ちょうどアーチを描いている図面の下のところに駐輪場がありますが、こちらを通していただいて、通用口のほうから入って上がる。あるいは、この脇に階段を設けて、そこからまた上がるといった3つのパターンを今想定しています。 ただ、これからお部屋の場所がはっきり決まってくる中で、また変化が出てくるかなと考えてございます。
委員	ありがとうございます。
進行役	ほか、ございますか。 委員、どうぞ。
委員	ありがとうございます。 幾つか伺いたいのですが、1つは教室の配置図です。2階平面図で音楽室がこの図でいうと左下で音楽準備室がその隣となっています。音楽室は当然防音を十分にした造りにすると思うのですが、さらに考えると今の案では、この音楽室がある場所の左側は道路を挟んで住宅街になるのです。下は、たぶん駐車場を挟んで病院の建物という感じだと

	思います。音楽室は少しでも住宅街から遠い所を考えると、この2階平面図の音楽室と音楽準備室をその右隣の多目的室と会議室と左右入れ替えればいいのではないかと。そうすると、音楽室も住宅街からより遠くなります。それから、楽器等の運搬も移動したほうがエレベーターに少しでも近くなるという感じがします。 こ検討していただけたらと思います。 それから、ワークスペースはいろいろな多様な教育にぜひ利用してほしいなと思いますけれども、先生方の意見でも出ていたように、教室との間仕切り、防音。つまり隣の教室がワークスペースを使ってわいわい、活発に授業をしているとしますね。その隣の教室にそれが聞こえてくるということも当然考えられるわけですので、簡便に開け閉めができる一方、防音も含めてきちんとワークスペースと教室の間の遮断ができるというのはなかなか難しいのかもしれないのですが、要するに、せっかく造ったけれども、そんなワークスペースでワーワー授業されたら隣の部屋とかが授業にならなくてとんでもないと。結局工作を作ったときの置き場ぐらいにしか使えないということのないように、せっかく造ったからには有効に使えるようにしていただきたいと思います。 今日の図では、このワークスペースの幅、普通教室の幅は前回ではたしか8メートルと説明があったように思いましたが、3分の2ぐらいですか。この幅は6メートルぐらいですか。
日総建	今、普通教室の幅は9メートルです。
委員	ワークスペースの幅は。
日総建	今、6メートルです。ビックパットがすごかったので、幅が広いほうがよいかなと思って、今、そういうプロポーショナルをしています。
委員	分かりました。 それから、ちょっと変わります。これまで話も出ていないのですが、杉一小学校は今年で150周年になります。日本全国の中でも、江戸から明治になって、その初等中等教育が全国あまねく始められる本当にトップバッターの1つとして杉一ができたわけですが、それから100年ということを記念して、創立100周年の時に造られた立派な石碑が校内にあります。 その石碑は河北病院の移転に伴って杉一の敷地の一部を河北の工事の道路のために削ることがあって、100周年の記念碑もその道路を造る場所に置かれていたものですから、わざわざ今の敷地の内側に移転して、現在もその100周年の石碑が置かれているのです。

	さて、今度仮にこれに移転するとして、当然のことですけれども、過去の杉一の歴史を背負って新しい校舎・校庭ができて、また新しい子どもたちも育っていくと。過去のこの地域の歴史も大切にしながら、新しいまた 100 年、200 年を過ごしていくのだという意味も含めて、ぜひこの現在ある 100 周年の石碑の置き場所、校庭か校舎の場所のどこかと思えますけれども、ぜひ検討していただきたいと思います。多分、今まで視野に入っていなかったのではないかなと思って、これをぜひお願いをしておきます。 以上です。
進行役	事務局からありますか。
教育施設計画 推進担当係長	ありがとうございます。 そうしましたら、最初に音楽室について入替えができないでしょうかというお話についてご回答させていただきます。 こちらは、実は端っこにあります会議室、黄色になっていると思うのですが、いわゆる開放会議室ということを想定して書かせてもらっている案です。 実はこの場所にありますが、先ほど学校開放で体育館にどう行くのかというお話があったのですが、動線のセキュリティーラインを考えたときに、ここに寄せることで、この目の前にある階段を使って、それ以外の場所に学校開放で来られた方とかが入らなくていいようなシャッターであるとか扉とかをつけて区画分けをしようと考えています。そのために実は会議室が端っこに寄ってしまして、音楽室がその場所から外れたところに行って子どもたちが自由に行ける場所に来ているという案になってございます。 ただ、セキュリティーの動線につきましては、まだこれで確定したわけではありませんし、ほかの部屋との調整もございまして、今言ったお話を基にもう一回、例えばフロアを変えるという案もございまして、検討させていただければと考えております。よろしく願いいたします。 また、防音の教室の間仕切りににつきましては、完全防音という形でやると扉が重くなって開かなくなってしまうので、ほどよい形にはなるかと思っておりますので、その辺はしっかりと調整をして、他の授業の邪魔にならないようなとか、あるいは先生方が調整しやすいような形のものをこれからしっかり検討していきたいと思います。 内容としましては、実施設計でこの辺は検討していく内容となってま

	いますので、よろしくお願いいたしますと思います。 先ほどの 100 周年の石碑です。立派な石碑が中杉通りから見えるところにあるかと思うのですが、こちらにつきましても、今後こういった形でやっていくかということを、たしかこれは杉並第一小学校の同窓の会でよろしいですか。そちらの皆さんとご相談をさせていただければと思いますので、改めてまたお話をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。 私からは以上です。
委員	よろしくお願いいたします。 音楽室の件ですけれども、会議室がここに置かれている理由は分かりました。だったら多目的室と音楽室を入れ替えても、というようなことも含めて。少しでも防音のことを考えた配置を考えられたらということですので、その辺も含めて検討していただければと。
教育施設計画 推進担当係長	ありがとうございます。
進行役	委員、どうぞ。
委員	日総建さんが何回も杉一に來られて、学校の特色をよく分かってくださって、いろいろな形で設計していただいたということに関しては感謝申し上げます。 ただ、ほかの学校でも、結局児童数の推移をきちんと数字を出していなかったのが、今改めて、教室を造っている学校が実際に今あるのです。ですので、子どもたちの学びを考えたときに、きちんと学べる教室の数の確保をちゃんとしておいたほうがいいのかと思います。 今の杉一の教室数よりも 1 つか 2 つぐらいしか多くなく教室数ができているので、そこを特別室に使っていることもあるのですけれども、そのところの児童数の推移と今後の杉並の教育にも関わってくると思うのですけれども、何人定員で 1 クラスにするのかも含めて、教室の数をもう少し明確な形で出していただくとよろしいかなと思います。 あまりにもいろいろなところの準備室がたくさんあって、それはありがたい話だと思っていますけれども、基本的に子どもが学ぶ教室の数は確保しておきたいと思っておりますので、ぜひそのところの、児童数推移をきちんとした形で出していただけるとありがたいなと思います。 以上です。
教育施設計画 推進担当係長	ありがとうございます。 現時点の予測はあるところなのですが、この校舎を 80 年もち

	せるわけですから、そういう意味ではまだまだ不足はあって申し訳ないところなのですが、10 年先の状態では、まだ今の同じクラス数という予測ではございます。 ただ、あくまでも予測ですので、今回 3 教室を余力として普通教室として用意させていただきます。そのほかにも今後、将来的には少人数教室と変えたりすることも可能なように、建物の構造が、ラーメン構造と呼ばれるのですが、そういった入れ替えができるような造りにもしているところではございますので、将来的な対応も含めて教室の位置はしっかりと決めていきたいと思います。
進行役	ほかに、ございませんか。 委員、どうぞ。
委員	資料の説明、ありがとうございます。すごく分かりやすい資料でありありがとうございます。 それと、リクエストしていた先生方へのアンケートをやっていただきまして、先生方の意見というか、声が本当によく分かりました。私も小学生だったのが 40 年以上前なので、今の授業の仕方とか、どういうふうに勉強したいかというのは分からないですし、先生方のこういったご意見というのは最優先されるべきものだと思います。 その中で、いろいろ質問あるのですが、まず、ワークスペースの使い方というのが正直私もピンときていないというか、子どもの頃そういう使い方をしたことがなくて、見学をしたけれども、それでも使い方が分からなかったのです。 先生方の意見を聞いても、雨の日の遊び場にしたらいいとか、作品展示とか、壁面で掲示だとか、あとは本当に冷房が効いたほうがいいとか、教室が完全に閉められることが重要だという話があって、ほかの声が授業中に聞こえてくると困るので、教室としてしっかり防音というか、間仕切りがしっかりできることが必要なのだろうなということはずごく思いました。 逆に普通教室とワーキンググループをフルオープンでつないで使いたいというニーズがどれくらいあるのかなというのが、このアンケートでよく分からなかったのですが、フルではなくても大きめに開けておけば実はいいのではないかと、そういうことがもしあるのだったら、間仕切りのスライディングウォールは大変だよとか、音が漏れると困るよね、みたいなのが少し解決できるかもしれないと思いました。今はフルオープンになることを大前提にワークスペースを考えている

	ような気がするのですけれども、そのニーズは本当に先生方も含めて子どもさんも含めて、あるのかないのかがちょっと分からなかったなという感想です。 別にだからこうしたほうがいいとか、あまり私も分からないのですけれども、このアンケートを見たら、そう思ったので、その辺で何か考え方というか、フルオープンでないとこういう使い方がしづらいからその必要性があるのだとか、何かその辺、もしあれば終えていただければと思います。
進行役	まず先に事務局から回答します。
委員	今のスペースに関して。私もワークスペースのこの写真を見て、すごく伸び伸びとして楽しそうではあるのですが、杉一小学校でも勉強をする時間を大切にしていますし、子どもたちは30分、40分集中することがなかなか限界だと思うので、当然ここにドアがあるものだと思っていましたけれども、これはないのですか。今までのような教室のドアはあるのですよね。
教育施設計画推進担当係長	ドアはございます。今回写真でお見せしているのは、閉めているところは普通の教室なので、分かりやすくこうやって開くのですよということを見やすくした資料です。 資料1を御覧いただくことは可能でしょうか。一番最初の資料1のA3判の大きい紙です。この1枚目の左下の隅に、こんなふうにできますよということで、閉めて使ったり開けて使ったりという形ができるようにしています。 先ほどありました、このフルオープンのお話ですが、厳密にはフルオープンにできるかどうかは微妙な部分もございます。要は扉をスライドさせて、たまる場所ができるのですが、隣の教室にはみ出すわけにいきませんので、その分は残ってしまう部分はございます。 先ほど部分的にもう少し変えたほうが、というお話については、我々のほうも今回部分的に閉める根拠をなかなか出しづらいという部分もございますので、まず開けられるようにするということから資料としてご提示させてもらっているところです。 また、どういった使い方がということで、こちらについては様々なご意見があるのですが、杉並区でもこういった教室はオープン教室と呼ばれているケースもあるのですが、我々が今回ワークスペースと書かせてもらっているのは普通教室を拡張して使えるという形で設計者さんからご提案いただいております、先ほど展示室になるのではないかと

	うお話もございましたが、例えば近年子どもたちが自分たちで考えてグループワークを行ったり、いろいろと情報発信し討議をするといった場所を考えると、普通教室だと生徒さんが少なくなったとはいえども、30人程度いらっしゃると机を移動させて4人ぐらいのグループをつくって話し合っ、さらにいろいろな資料を広げてとなってくると場所が手狭になると。そういったときに場所を広くして使えるようにしたりとか、あるいは隣り合ったクラス、杉並第一小学校の場合、2クラスずつクラスがございますので、学年が1つになって授業をしたりといったことも工夫できるやり方かなと思ってしまして、今回の想定としては、そういったこともイメージしながら、あとは実際先生の使い勝手がいいようにしつらえていけるようにお話を聞きながら造っていきたいと考えているところでございます。
進行役	委員、どうぞ。
委員	今の意見で、杉並の小学校でこのワークスペースというか、オープンスペースを既に設備されている学校は幾つもありますね。そこの先生方のご意見、こういう使い方をしてよかった、悪かったというものを一度聞かせていただけるとありがたいなと思います。
教育施設計画推進担当係長	ありがとうございます。実は過去にアンケート調査を杉並区で行った実績がございまして、今手元に資料としてはご用意できていないのですが、その内容を一応我々は確認してございます。 抜粋してお話をしますと、今私がお話ししたような形で教室をもっと広く使いたいときに使えと。特に小学生の場合はいろいろな形で授業をすることがございまして、そういったときの自由度が上がるころがこういったワークスペースと一体化して使う時のメリットだということでお聞きはしているところでございます。
進行役	委員、どうぞ。
委員	振っていいのかわかりませんが、委員、高円寺学園にワークスペースはあったのですか。
委員	私は前任が高円寺学園でございました。高円寺学園はワークスペースというと、これとはちょっと違うような感覚ですが、学年のところに少し広いスペースがあったという状況かなと思います。その場所でも子どもたちの状況に応じて集会的なものを開いていたり、少し子どもたちが発表の練習をしたりするという使い方はしておりました。 また、私は担任時代に杉並区第十小学校にいました。杉並区第十小学校はオープンスペースの学校でした。ワークスペースも同じように、

	教室とつながっているような形でやっておりました。こちらも状況に応じてはクラスの子どもたちの机を出してグループ発表をするということもありましたし、あとは大人数ということで、学年全部を集めて授業をしたこともありました。そんなフレキシブルな使い方ということではできるのかなと。 ただ、杉並区第十小学校のときはスライディングオール系の動かし方だったので、やはり安全面であったり劣化というか、動きが悪くなるとか、ここは何かできないところがあるなというところがあったので、その辺の使い勝手の問題でいくと、ちょっと「うーん」というところもあって賛否両論であります。担任とか、あとは学校の先生方の使い方とか工夫の仕方というところが1つポイントになってくるのかなと思っています。 個人的にはあると面白い授業展開ができるかなと、あくまで私見ですけども、そういうふうに思っております。 以上です。
委員	私も経験がありまして、前任校は高井戸第二小学校だったのですが、高井戸第二小学校はどういう設計かという、1～2年生は完全に個室で遮るパターンです。3～4年生になると、今、委員が言ったように、スライド式で開けたり閉めたりできるという教室。5～6年は完全にオープンなので、それぞれよさといいますか。 1～2年生のうちは落ち着いて、オープンだと多分少し落ち着かなくなってしまうことがあるので、ある程度教室という形で場所を区切ってやると、落ち着いて勉強したいとか、音に敏感な子とか、そういう子の中にはいるので、1～2年生のうちは仕切ったほうがいいかなという思いです。 先ほどスライド式はすごく便利で、集中したいなというときは閉めて、オープンにしたいなというとき、広く使いたい、廊下も使いたいなというときはそういう形でやります。 ただ、これも委員が言ったのですけれども、スライドは安全性というか、指を挟んでしまっけがをしたというお子さんもいらっしゃったので、その安全の配慮というのはすごく難しい。 5～6年生のそのフルオープンというのはいい面もあるのですけれども、なかなか僕も慣れなかったのですが、隣の教室のワーという音とか盛り上がった、盛り上がっていいのですけれども、こちらはすごく集中してテストとかをやっていたりして、隣といいますか、3つ、4つ離

	れたところから音が聞こえることもあるので、それは少しやりづらさもあったのですけれども、オープンでやると、例えば1組・2組で総合的な学習でグループワークでやりたいというときに先ほどワークスペースを使って、いろいろなところでグループが学習をする。そういう使い方、教室だけではなくて広く使えるというメリットもありますし、先ほど申しました学年でミニな集会みたいな形でやりたいときにはそのワークスペースを使う。 先ほどワークスペースの件で委員が言われたように、物置になってしまったりとか、学校にはいろいろな物が、作品であったり、子どもたちが持ってくる物はいろいろあるので、ワークスペースだと気を付けないと物置になってしまう危険性がすごくあるのです。いろいろな物がありますから。 なので、ただ単にワークスペースというよりは何か意図を持ってやったほうがいいと思う。私はワークスペースの中でもミニ学習室みたいな形で仕切りがあって、そこではグループごとに学習できるよとか、そういう使い方もあるかなと思います。ともするとこれ、教室の前が少し物置になってしまったりとか、そういう危険性もあるのかなと思いますので、教員側の意識とか教え方とか、そういうものがすごく大事になってくると思います。 長くなってすみません。以上です。
進行役	委員、どうぞ。
委員	今もお二人の委員からご紹介があったので、少しイメージが湧いたかなと思います。杉一小学校の子どもたちが中学校へ行くと、杉森中学校へ行きます。杉森中学校は古い校舎の建物が平行に2列建っているのです。校舎の幅は10メートルもないぐらいで並んで建っているのです。その間を各階フロアが渡り廊下みたいな形をつないであります。そこがいればワークスペースのようになって広い空間があるのです。それが各フロアにあるのです。実に多様な使い方がされていて、そこはここで想定されているフリースペースよりもずっと幅広いものですから、今お話があったように、学年で集まって先輩の話を聞く会というのをそこでみんな座ってやったり。何か企画のパネルを立てて展示会をやってみたり。当然のことながら1つのクラスの授業があったり。実に多様な使い方をされています。私は杉森のCSの委員も仰せつかっているものですから、杉森に行くことが多いのですけれども、それを見て、とてもいいなと思っています。

	これは中学校の例ですけれども、確かに先生方がある種の工夫とか知恵とか、そういうことが問われるという教育形態かもしれませんが、これからの教育でいろいろな可能性が生まれるスペースとして使えるのではないかなというのが私の感想です。
教育施設計画 推進担当係長	ありがとうございます。今頂いた意見を参考にして、しっかりした造りにしてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。
進行役	では、後にしました資料２の説明が残っておりますので、資料２をお願いいたします。
教育施設計画 推進担当係長	それでは、資料２を御覧ください。 杉並第一小学校の改築では校庭の砂塵対策の一環として、区では人工芝の導入を検討しています。 これに際し、暑さ対策の必要性など委員の皆様から課題を挙げていただいており、土の校庭との比較資料を提示してほしいといったご要望もお伺いしておりました。今回資料２としてまとめましたので、ご説明をさせていただきます。 また、人工芝の検討についてお話をした際に中野区では一足制も併せて導入されていることをご説明しておりましたので、こちらにつきましても簡単にまとめてございます。 なお、一足制につきましては、まだ現時点で区としてどうこうするものとしてご提案させていただいているものではございません。近年人工芝導入校が増えるに従って適用している例が増えておりますので、ご紹介をする次第でございます。 それでは１枚目を御覧ください。 まず、校庭整備の手法として、大まかな分類と特徴をまとめました。最初の①のクレイ舗装と②のダスト舗装は、いわゆる土系の舗装となります。特徴は記載のとおりですが、適度に硬く、屋外競技全般に向くほか、釘打ちや火の使用等ができることから、小学校の授業以外の用途へも広く対応ができる自由度の高い舗装となっております。 ただ、あまり知られてはおりませんが、適切な表層管理が必要で、怠った場合、表層の剥がれや硬化、降雨後の軟弱化が起こり、運用に支障が生じるようになります。また、学校内や近隣への砂塵及び土埃の被害が発生しやすいのも特徴です。 下段の土埃の発生状況の写真を添付してございますが、これは今年杉並区の小学校で実際に発生した事例でございます。 それでは２ページ目を御覧ください。次に挙げますのが３のゴムチック

プ、あるいはウレタンによる舗装でございます。適度な硬度と弾力があり、オールウェザーと記載にあるとおり、降雨後の回復性の高さが特徴となっております。杉並区でも中学校の走路などに適用されている事例がございます。

その下が天然芝でございます。杉並区でも多くの校庭で導入されていましたが、維持管理として施肥、散水、刈込、貼り替え、エアレーション等と莫大な力と費用を必要とするだけではなく、利用停止の養生期間も必要なため、校庭の利用が大きく制限されるため、取りやめる学校が増えてございます。

そして、最後に人工芝でございます。透水性が高く、雨後の復旧も早いのですが、夏場は温度上昇しやすいので、冷却できる設備を用意する必要がございます。他の自治体ではスプリンクラーの設置が行われているようです。また、芝を形成する合成繊維、こちらはパイルと呼ばれておりますが、運動場では柔軟性と耐久性が高い製品を使用することで、擦り傷や千切れといった支障は少なくなっているようです。

また、2ページ目の一番下に表をつけてございます。こちらは23区の小学校の運動場舗装について集計した東京都の資料から抜粋したものでございます。

令和3年と6年の比較を左右でつけておりますが、現在800校程度の小学校が23区にございまして、そのうちの半数以上が土系の舗装となっております。ただ、近年土系の舗装は減ってきていて、代わりに人工芝の学校が増えていきているという状況でございます。

そして、めくっていただきまして、次のページは土系の舗装と人工芝で整備した場合の比較を行ったものでございます。なお、5つ目の授業等の記載は、今回は小学校のみを対象として見てございます。

また、人工芝には幾つかタイプがありまして、今回はノンファイルと呼ばれるゴムチップなどの充填材を使用しないタイプで比較をしております。このゴムチップがあった場合は、いわゆる3つ目の「ボール・靴等の汚れ」の部分が「△」という形で、要は汚れが出るという形になるという違いが出てまいります。

そして、最後のページをめくっていただきますと、一足制についてでございます。

小学校の校庭の舗装は土埃の出ないオールウェザーで整備されている学校もありまして、人工芝と合わせると301校、全体の37%となっております。これが年々増えてきておりまして、この2つは土や砂な

	どの汚れを伴わない校庭となっておりますので、一足制を取り入れている例が散見されてございます。そこで挙げられた有効な部分でありますとか、こんなことに気づいたというところを記載しているものが裏面の最後の資料としているものでございます。 また、こちらの一足制については先ほども述べましたとおり、人工芝とは違いまして、基本設計で検討を完了する必要は全くございません。最終的に整備する床材の選定とか備品類、下足入れが中心になりますが、こういった内容と、あとは清掃等の保守の内容を固めていく過程で精査ができればよろしいかと思っておりますので、今後、他の自治会の導入事例等も参考にしながら新校舎の運用に際して支障が出ることはないように確認をしながら是否を検討してまいりたいと思っております。 資料には掲載してございませんが、現在6区程度で一足制導入の実例があるようでございます。 以上でこちらの資料について私の説明を終わりたいと思っております。ご意見、ご質問がありましたら、よろしくお願いいたします。
進行役	それでは、今の資料2つについて、ご発言がある委員は挙手をお願いします。 委員、どうぞ。
委員	ご説明ありがとうございます。分からないところがあるので教えていただきたいのですが、オールウェザーと人工芝を比較したときに、人工芝のほうがいいことはあるのですか。
教育施設計画推進担当係長	人工芝のほうが柔らかいという部分がございます。オールウェザーの場合は表面の仕上げをどうするかにもよるのですが、つるつるになる場合とざらざらになる場合がございまして、ざらざらの場合は転んだときの擦り傷とかが出やすい。つるつるの場合は雨が降ってもすぐ使えるのですが、少し湿気が残っていると滑りやすく危険があるというところがございます。 人工芝の場合は適度な抵抗がございますが、ただ、芝生が柔らかいので、例えば小学校の場合はあまり影響がないと聞いておりますが、いわゆる陸上競技で短距離走とか、こういったところで練習するときはどうしても走りにくいという状況がありまして、その辺が逆に欠点となっていると伺っております。
委員	ありがとうございました。よく分かりました。 追加で質問です。このオールウェザーのところの「火の使用等は表面保護が必要」の「表面保護」というのは、その場でできるような対応な

	のですか。それとももともと設置したりとか、そういう設備が必要ということですか。
教育施設計画 推進担当係長	簡単なものでいきますと、養生シートというものがございます。これは火を防ぐのではなくて、火の粉が周りに飛び散ってオールウェザーが焼けるのを防ぐという形になっております。現実的にその上で火をたこうとした場合は、下にブロックを敷いたりといった、また別の作業が必要になってくると伺っております。
委員	ありがとうございました。
進行役	委員、どうぞ。
委員	今のご説明の中で、今決めなくても将来決定すれば間に合うということだったのですが、今昇降口があまり大きくないかなと思っていて、下足がない前提でもう計画をされていて、もし決めるのであれば早く決めたほうがいいのではないかなと思ったのですが、大丈夫なのでしょうか。
教育施設計画 推進担当係長	実は昇降口の形が不正形なので、小さく見えるかと思うのですが、普通の学校と大体同じ面積を取っておりまして、実はここには書いておりませんが、既に日総建様のほうでは、下足入れも実際に入れて試算をしていまして、480名分の下足入れが置けるようなスペースになってございます。
進行役	ほかにございませんか。 委員、どうぞ。
委員	比較をまとめていただいて、どうもありがとうございました。 これは前から言われていますけれども、決める場ではないというところですけども、人工芝については、時期的にいつ頃決定するということになるのでしょうか。
教育施設計画 推進担当係長	校舎配置とは違いまして、皆様のご意見を頂いて最終的に区のほうで決定させていただくのですが、時期的には今年の夏から秋にかけては決まるものということでご了解いただければと思っております。
委員	あと2回ぐらいこういうものがあると、その最終回までということですか。
教育施設計画 推進担当係長	そうです。それまでに我々のほうで、どちらかでお話をさせていただければと考えてございます。
委員	分かりました。ここで私たちが何か言う話ではないですけども、当初から全体的にコストの話をしています。3ページ目の「当初整備コスト」、クレイが「◎1」で、人工芝のほうが「クレイ舗装を1とした場

	合 2 ～ 5」 』と書いてあるのは、コストが例えば、よく分からないですけれども、1,000 万円だったのが人工芝だと 2,000 万円から 5,000 万円になるというイメージで考えておけばよろしいのですか。
教育施設計画 推進担当係長	物によって価格が変わってまいりますので、そのくらいの振れ幅がございます。
委員	実際の額とか見積りはご提示いただけないのですか。
教育施設計画 推進担当係長	まだ現在そこまで出しているものではございませんが、試算としてメーカーさんがお出ししている資料では、ダスト舗装とかでございますと、大体 1 平米で 5,000 円くらい、人工芝は例えば一例でいきますと、その 5 倍ぐらいになるのが最高ですので、2 万 5,000 円ぐらいになってくるようです。
委員	ありがとうございます。 もう 1 つだけ。かまどベンチ、どうもありがとうございます。これは教育施設計画推進担当係長さんにお話を聞くのか分からないのですけれども、杉並区の小学校でこういうものを設置されているという例はあるのですか。
教育施設計画 推進担当係長	ないそうです。
委員	すばらしいです。ありがとうございました。導入していただけるのならばですけれども。ありがとうございます。
教育施設計画 推進担当係長	ありがとうございます。
進行役	ほか、よろしいですか。 それでは、委員の皆様、ありがとうございました。ここまでの内容を通して委員からお話を頂戴したいと思います。 委員、お願いいたします。
委員	前回所用で欠席しまして、大変申しありませんでした。 見せていただいて説明を伺って、当初の頃から比べて非常によくなっていると思います。この懇談会でのいろいろな意見も反映されていますし、私はこういうものが 9 回も行われるということにびっくりしたのですけれども、それだけのことがあるかなと感じました。 それから、前回か何かに私は南東側の道路との間のところに何か箱が 3 つぐらい置いてあって、これでは設計ではないとか言いましたけれども、その辺も大変改善された図面になっているので、ありがとうございます。そういうプロセスを経てブラッシュアップされていくことがとて

も重要だと思います。

それから、最初の頃の設計ではワークスペースの形とか大きさもバラバラだったりして、これでは本当にうまく機能するのかという感じがありましたけれども、それもかなりのワークスペースのスペースが取られて、これは大変よかったかと思います。

先ほど杉並第十小学校の例が出てきて、ものすごく懐かしい、40 年前の建築ですよ。出来た頃は非常に評判になって、私も見に行きましたけれども、あの頃に比べてこういうオープンスペース的な使い方も相当変わってきていますので、いろいろな事例があると思うので、忙しい先生方にそんなことができるかどうか分かりませんが、先生方が実際にこういうスペースがある学校で授業をされているところを見学されると、お二方はご経験があるそうですけれども、ない先生にとってみればイメージができないと思うので、そういう見学の機会、もしくはここにいらっしゃる方々もそういう機会が本当はあると、かなりイメージができるかなと私は思いました。

そこで、このワークスペースはスライディングドアがどうのこうのとかがいろいろご意見もありましたけれども、これではスペースを取ったという段階なのです。前に比べてかなりよくスペースができましたけれども、建築としては、このスペースが普通教室との関係でいかにうまく、いろいろな手法で使われるかというためには、これから建築としての造り込みが必要だと思います。

それは設計者の方も当然考えていらっしゃると思うのですが、これも前に私は申し上げましたけれども、私が建築屋としてこれに対して意見を言うためには、どこが窓で、どこが壁で、どこが開くのかということが表記されていないと、私にとっては建築の図面とは思えないのです。もし、そういう意見を求められるのであれば、次の段階ぐらいではそういうことが分かるような図面を提示していただけるとありがたいと思います。このワークスペースの南側の少人数教室というところも、これがどっちに向いて開いているのかとかいうことが全くこれでは想像できないわけですので、そうしたらワークスペースがどうなるのかということがよく分かりません。

それから、玄関を入れて下足入れがどうなるかにもよるのですが、多分今の段階の設計では下足入れがないことをイメージした設計と思われますが、入ると大階段があって、多分そこに子どもたちが並んで記念撮影するとか、そういうことをイメージして設計しているのだと思

	いますが、この座れるような大階段というのは、世界的に今はやりでして、こういうものが造られている例が多いのですけれども、どこに行っても非常にうまく機能していると思います。こういうものもすごくいいと思うのですが、ただ、このままでは、この大階段を上がっていく段階での左側のほうは、しばらく行くと2階の床があって、2階に上がる階段との関係もあって、何か見上げときに左上のほうが何か変だなという感じに、このままではなりません。 設計者も発言されたいでしょうが、今日は必要ないと思います。そういうところも含めて、ここが杉一のシンボルになるようなすばらしい空間になるように、これからは設計をブラッシュアップしていただきたいと思っています。 それから、もう1つ苦言を言うと、先ほど来出ているかまどベンチを設けてというのもすばらしいなと思いますし、こういうものを見学に来る人が増えるかと思いますが、前の図面に対して改訂版で、そうして、そのスペースを取って、さらにその上、私も最近の小学校の状況は知りませんが、僕が子どもだったときには、そこのかまどベンチの上のところに台があって、そこで校長先生が朝礼の挨拶をされるというのが僕の小学校のときの感じです。たぶんそういうことを想定して、このかまどベンチと100メートルトラックの間をかなり空けてあるのだと思います。もとの図面はもう少し下がっていたのです。かまどベンチができたら、このトラックが上がって、このトラックの上のラインと倉庫があたりするところがものすごく近くて、機能的にはこれで成り立つのでしょうかけれども、例えば子どもたちがこのトラックを反時計回りで走っていったら、右側のビオトープの前辺りで正面に見えるのが便所と倉庫という感じで、勢い余ったらそこにぶつかるのではないかなというような設計に今の段階ではなっています。前回の段階ではそうではなかったので、このかまどベンチを設けたがために筆が滑ってこういうふうになっているのだと思うのですけれども、例えば子どもたちがこのトラックを回るときにどういう景色が見えて走っているのだろうかとか、そういうようなことをしっかり考えていただいて、その周辺の物の配置、遊具がどの段階で子どもたちにどう見えてくるのかとか、そういうこともぜひとも考えてこれから設計をさらにブラッシュアップしていただきたいと思っています。 時間がかかなり超えていると思います、以上です。
進行役	思う存分お話しいただければと。委員、ありがとうございます。

	それでは、事務局より連絡をお願いします。
学校設備・支援 担当部長	皆さん、本日はどうもありがとうございました。 今日は第9回目ということで、これまで様々な議論を頂きました。今回も、いろいろ図面とか資料等を見ながら頂いた意見というのは、本当に貴重なご意見だったと思っておりますので、次回以降の懇談会の中でしっかりそちらを精査させていただいて、皆さんにお示しすることで、皆さんの理解が深まり、さらにそれがいい形になっていければと思っておりますので、引き続きよろしくをお願いしたいと思います。 本日はどうもありがとうございました。
進行役	では、続いて事務連絡をお願いします。
教育施設計画 推進担当係長	ありがとうございます。 それでは、最後に事務連絡と簡単に私ども事務局の動きを2つご報告させていただきたいと思います。 まず、皆様の机の上に「改築ニュース」ということで第4号、前回の懇談会で校舎の配置が決まりましたので、そちらについて地域の皆様にもお知らせをいたします。今配布をさせてもらっているところでございます。 そして、もう1点のお知らせは、今後、実施設計にこれから入っていくわけですが、この実施設計は秋ぐらいから入っていきますが、そのときに今お話に出たワークスペースについて杉一小の生徒の皆さんの声を反映させた設えにしていきたいと考えておりまして、来月、7月に学校で5年生のワークショップを開かせていただきたいと考えてございます。また次回間に合いましたら、次回が近いので報告できるかは分からないのですが、資料がまとまりましたら、この場でご報告をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。 そして、次回の懇談会ですが、7月29日です。こちらの夕方17時30分から、また2時間ぐらいで開催させていただきたいと考えてございます。まだ会場は決まっておりませんので、後日改めて案内文で送付させていただきます。 私からは以上となります。ありがとうございました。
進行役	では、本日はこれで閉会といたします。皆様、ご協力いただき、ありがとうございました。